

ツバメを通して地域を見つめよう

対象：3年生

教科：社会・総合

関連する単元：社会「まちたんけんをしよう」

時間数：16時間

【単元の概要】

学習の背景

ツバメは、学校の昇降口などによく営巣する、とても身近な野鳥の一つである。身近な野鳥は他にもいるが、繁殖の様子を比較的容易に観察できる野鳥はあまりいない。そのような利点を生かして、ツバメの生活を調べることにより学校や地域の自然や環境への愛着が高められるようにしたいと考え、本単元を設定した。

単元の位置づけ

3年生社会「まちたんけんをしよう」の単元では、地域の社会的事象を観察、調査するのだが、その際に、学校だけでなく人家の軒下にも営巣し、地域の人たちにとっても身近な野鳥であるツバメを見る機会が多い。

そこで、社会科と総合的な学習の時間を関連させて、ツバメを取り上げることとした。ツバメは、人間の生活とも深く関わり合っている上、他の野鳥や自然へに関心が広がりやすいため、子どもたちが、地域の人や自然に目を向けて考えることができると考えた。

なお、ここでは、3年生で行った実践をもとに紹介する。しかし、ツバメが春になると南の国から日本にやってきて繁殖し、秋になると再び南の国に帰っていく渡り鳥（夏鳥）であることから、4年生理科「季節と生き物」と関連させることも可能である。渡り鳥としてのツバメを取り上げることによって、季節の移り変わりをわかりやすくとらえることができる。高学年では、ツバメが渡りをするを生かして、国際理解教育と関連させて行うことも十分可能である。

また、ツバメは、飛んでいる昆虫を主食とする最も身近な肉食性の生物でもある。つまり、生態系でも上位に位置する生物である。6年「生き物のくらしと自然環境」では、このツバメを窓口にして自然を見つめることにより、生態系の様子を垣間見ることができ、身近な地域の自然環境について考えることもできる。

これまで挙げたように、ツバメは、他の生物にない多くの特性を持っている。このツバメを核にし、子どもが自ら学習問題を設定し、問題解決的な学習を行うことによって、自然環境全体について考えることも可能である。また、渡りを通して、国際理解教育との関連を図ることもできる。このように、ツバメは様々な可能性を秘めた教材と思われる。

3年・社会	「まちたんけんをしよう」
↓	
3年・総合	「ツバメを通して地域を見つめよう」
↓	
3年・算数	「長さをはかろう」「表とグラフ」
4年・理科	「季節と生物」

単元のねらい

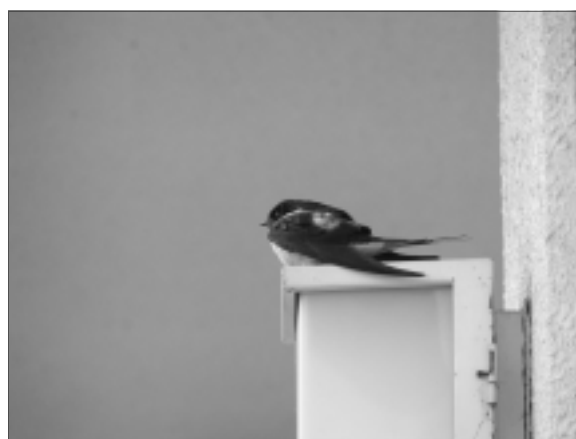
- ・ ツバメを通して身近な自然、地域、そこに住む人々の様子について関心を持ち、それらを大切にしようとする心を育てる。

概 要

本事例では、前述したように、ツバメを通して身近な自然に対する関心を高めるだけでなく、人々との交流を通して地域全体への関心をもつことを目的としている。また、これらの活動を通して、地域やそこに住む生物・人々を大切にしていこうという心情や態度を育てることも大切である。

導入では、社会科「まちたんけんをしよう」の学習をきっかけにして、ツバメの存在に気づくようにする。そして、ツバメや他の身近な野鳥・自然について調べる意欲をもち、学習計画を立て、調べ学習を行うようにする。まとめでは、地域の自然や環境に目を向け、それらを大切にしようと呼びかける活動を取り入れるようにする。

本事例では、ツバメに関する様々な問題解決的な学習を行う。その過程で、学校の職員はもちろん、地域の方・市民団体などの専門家などの協力を仰ぐことも多い。様々な人々との交流を深めることにより、自然だけでなく、それを含めた地域の環境について自分なりの考えをもてるようにしたい。



指導計画（全 時間扱い）

1 学期 導 入：4 時間 「ツバメを見つけよう」

- ・学校や周辺のツバメやその巣を見つけ、学習課題を見つける。
- ・学習計画を立てる。

1・2学期 展 開：11時間 「ツバメや地域の自然について調べよう」

- ・ツバメの生態や行動について調べる。
- ・ツバメに関する物語について調べる。
- ・ツバメの渡りについて調べたり、専門家に話を聞いたりする。
- ・他の野鳥の観察をする。
- ・地域の植物や昆虫などの自然について調べる。

2 学期 まとめ：6 時間 「地域の環境についてみんなで考えよう」

- ・相手に伝わりやすいように工夫して、調べたことをまとめる。
- ・調べたことの発表会を行う。

【環境意識を育成し実践行動へとむすびつけるために工夫した点】

- ・家屋に営巣する身近な野鳥であるツバメの特性を生かして、人と野鳥との関わりについて考えるようにした。
- ・単にツバメの生態観察にとどまらず、他の野鳥や昆虫、植物など地域の自然全体に視野を広げるようにした。
- ・本やインターネットなどによる調べ活動は最小限にとどめ、身近な人への取材や協力依頼を通して、自然環境だけでなく、「人環境」との関わりにも目を向けるようにした。



【単元・授業の流れと活動目標】

学習指導要領
の対応

ツバメを見つけよう（4時間）

〔活動目標〕 ツバメや学校周辺の環境への関心を高める。

導
入
（
4
時
間
）

活動内容	指導、留意点
<p>ツバメの観察を通して、学習問題を見つける。（2時間） 学校の昇降口や学校周辺の住宅に営巣したツバメの観察を行う。</p>	<p>ねらい：<u>ツバメや身近な自然への関心を高める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツバメの古巣調査を行うなどして、学校周辺のツバメの営巣状況について事前に把握しておく。 ・抱卵中のツバメを大勢で観察する際は、ツバメを驚かさないように注意する。 ・ツバメが巣作りを始めたり、抱卵を始めた頃が導入時期として適していると思われる。 ・発見したことを友だち同士で教え合い、ツバメへの関心が高まるようにする。
<p>活動の計画を立てる。（2時間） 各自が調べたいテーマを出し合い、単元構想図にまとめる。</p>	<p>ねらい：<u>ツバメや身近な自然を調べる学習の見通しをもつ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はツバメを核にしたテーマとなるだろうが、学習を進めるに従い、学習テーマを地域の自然や渡りなどに広げていくようにする。 ・調べたいテーマごとにグループを作る。

理科 P.29

国語 P.54

総合 P.14

ツバメや地域の自然について調べよう（11時間）

〔活動目標〕 ツバメや学校周辺の環境について知る。

展
開
（
11
時
間
）

活動内容	指導、留意点
<p>地域を歩き、ツバメの営巣場所を調べる。（2時間） ・ツバメが現在営巣中か、古巣かに分けて分類して記録する。 ・営巣場所を白地図の中に記す。</p>	<p>ねらい：<u>ツバメや身近な自然への関心を高める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋にツバメが営巣している場合には、その家の人に、ツバメの営巣活動の様子やツバメが営巣することによる家の人の気持ちなどをインタビューするとよい。そのことにより、ツバメと人間の深い関係に気づかせたい。 ・子どもの家のそばの営巣状況も放課後や休日に調べるように助言する。

ツバメの生態や行動を観察する。
(5時間)
・ツバメと他の野鳥の飛び方を観察する。

・巣作りの様子を観察する。

・抱卵の様子を観察する。

・子育ての様子を観察する。

・ツバメの餌について調べる。

地域の野鳥や昆虫などの自然について調べる。(2時間)



- ・3年社会の地域学習と関連させるとよい。
- ・ツバメに関する本や物語を紹介したり子どもが自ら調べたりして、ツバメへの関心を高めるようにする。

ねらい:ツバメの生態について知る。

- ・他の野鳥の飛び方と比較しながら観察するようにする。

直線に飛ばたく鳥:スズメ・ムクドリなど

滑空を交えて飛ぶ鳥:ツバメなど

波状に飛ぶ鳥:ヒヨドリ・コゲラなど

帆翔する鳥:トビなど

- ・校庭の端の泥が混じる場所に水をまいておくと、ツバメが巣作りに利用する泥を取りに来ることがある。
- ・古巣を観察し、ツバメの巣が泥と枯れ草からできていることを観察する。
- ・ツバメの巣作りの大変さを実感するために、紙粘土を小さい粒状にしたもので、ツバメの巣を作ってみるとよい。
- ・棒の先に鏡を取り付けると卵の様子を観察しやすい。
- ・卵の観察を行う場合には、親鳥を驚かさないう、親鳥がいない時に素早く行うようにする。
- ・親鳥が餌を運ぶ回数や間隔を記録するようにする。
- ・親鳥が子どもに与え損ねて落とした餌を拾ったり、子ツバメの糞を分解してツバメの餌について調べるようにする。
- ・糞の分解については、鳥インフルエンザの影響もふまえて、慎重に行う必要がある。

ねらい:地域の自然環境の様子について気づき、関心を高める。

- ・ツバメの巣と他の野鳥の巣を比較してその違いについて考えるようにする。
- ・野鳥や昆虫、植物などを調べることを通して、地域の自然環境に関心をもつようにする。

ツバメの渡りについて調べる。(2時間)
 ・学校図書館を利用したり、専門家の話を聞いたりする。

ねらい：ツバメが渡りを知り、海外の自然環境へも関心を広げる。

- ・夏休み明けにツバメを身近に観察できる機会が減っていることから渡りに気づくようにする。
- ・渡りについては直接子ども自身が観察することができないため、資料による調べ活動が中心となるが、「渡り」をなるべく身近に感じることができるよう、専門家の話を聞く機会ももてるようにするとよい。

地域の環境について、みんなで考えよう(6時間)

(活動目標) 地域の環境について自分なりの考えをもつ。

活動内容

指導、留意点

これまでの学習を通して考えたことについて話し合う。(1時間)
 地域の環境について思ったこと、それを大切にするために自分が行動したいことについて話し合う。

ねらい：地域の環境について自分なりの考えをもつ。

- ・自然環境だけでなく、地域の人との関わりについても考えるようにする。
- ・子どもが、地域における今後の自らの行動を考えられるようにする。

学習してわかったこと、考えたことを多くの人に知ってもらうため、まとめの活動をする。(3時間)
 目的別・方法別のグループを作り、自分たちの思いが相手に伝わるよう互いに教えあいながら学習を進める。

ねらい：自分の思いを相手に伝えられるようにする。

- ・誰に、何を、どのように伝えるのか、目的や相手意識、手段をはっきりさせるようにする。

学習してわかったこと、考えたことの発表会を行う。(2時間)
 伝えたい相手を招き、自分たちの学習の成果を発表する。

- ・子どもの実態に応じて、発表会という形式以外にも、新聞づくりやポスター、校内放送など、多様な発表・啓発手段を考えるようにする。

- ・単なる発表会で終わらせるのではなく地域の人を招き、発表を聞いてもらい感想や意見を交換することにより、地域に対する自らの思いや考えをより深められる場とするようにする。

総合 P.16

国語 P.60

総合 P.39

学習の効果・児童の変化について

子どもたちは、これらの学習を通して、以下のようなことを学ぶことができた。

ツバメを通して身近な自然環境に関心をもつことができた。

子どもにとって最も身近な野鳥ツバメは、生態系の中でも上位に位置する生物の一つである。そのため、ツバメの食性を調べることで、餌となる昆虫へも目がいくようになった。また、繁殖活動を観察するのが比較的容易なため、子どもたちの関心が高くなり、意欲が持続した。また、ツバメから身近な自然へと関心が広がりやすかった。

ツバメや身近な自然について調べることを通して、他教科との関連を図ったり、問題解決の能力・情報処理の能力を高めることができた。

単に調べ活動を行うだけでなく、調べた結果をどのようにまとめると見やすいか、わかりやすく伝えられるか、ということを考えるのに、大変役立った。その際、算数の「長さ」や「表とグラフ」等他教科の学習と関連させることができた。

ツバメや身近な自然について調べることを通して、地域に関心を持ち、愛着をもてるようになった。

ツバメは、主に人家や建築物に営巣するため、人間との関係が深い野鳥の一つである。そのため、巣のある場所を探す活動などを通して地域やそこに住む人たちへの関心が高まり、自然だけでなく、広く地域の環境へと視野を広げることができた。また、地域を大切にしようとする心や自らの行動を振り返ることにもつながった。

ツバメについて調べる活動を通して、人とのつながりを深めることができた。

ツバメについて深く調べるためには、子どもたちだけの力だけでは足りなく、専門家や行政の方々、地域の市民団体、学校の職員の力を借りることとなった。また、地域の方へ取材することもあった。発表会では、地域の人と子どもたちは、これらの活動を通して、多くの方々の存在に気づき、温かい対応を受けることにより、人とのふれあいや交流を深めることができた。

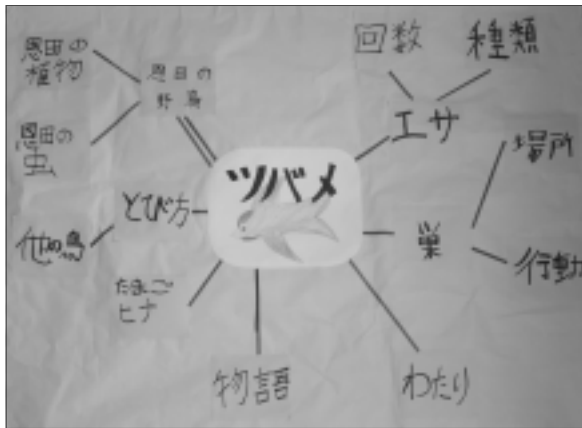
ツバメの渡りを調べることは、国際理解教育へと広がりをもつことができる。

今回の3年生の実践では、子どもの発達の段階から国際理解へと広がりをもたせることはできなかったが、学年によっては、ツバメの渡りをきっかけにして、国際理解教育へつなげることができると考えられる。国際交流団体やインターネットなどを活用すれば、現地の子どもたちとの交流も可能になると思われる。

そのような活動に深めることができれば、渡りを通して、世界の自然についても考えることができると考えられる。また、さらに発展させて、冬鳥として日本にやってくる野鳥の繁殖地の自然についても考えることができる。

これらのことから、身近な野鳥「ツバメ」を題材にして環境について考えることは、大変有意義なことだと考える。





ツバメのわたり 思い出新聞

スロ先生の絵画展 (Mr. Slo's Art Exhibition)
 ツバメの絵をたくさん見て、
 ツバメの飛行の様子や、
 巣の作りかた、
 ツバメの鳴き声、
 ツバメの習性、
 ツバメの生活、
 ツバメの歴史、
 ツバメの分布、
 ツバメの生態、
 ツバメの文化、
 ツバメの芸術、
 ツバメの科学、
 ツバメの環境、
 ツバメの未来、
 ツバメの希望、
 ツバメの夢、
 ツバメの理想、
 ツバメの未来、
 ツバメの希望、
 ツバメの夢、
 ツバメの理想

日本ツバメの会
 ① 春は、日本へ来る
 ② 春は、日本へ来る
 ③ 日本へ来た後は、
 日本へ帰る



野鳥の巣のちがい

鳥名	メジロ	分りな	ツバメ	キジバチ
おおよそ	20cm	1m10cm	28cm	80cm
高さ	5cm	40cm	12cm	80cm
場所	木の枝の先	木の枝の先	木の枝の先	木の枝の先
材料	木の枝の先	木の枝の先	木の枝の先	木の枝の先